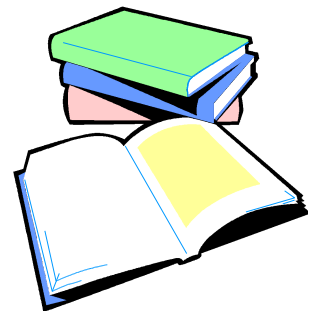




佐賀県教育センター

論文表記上の参考資料



(R 3. 3 改訂)

1 表記上の注意

(1) 漢字、仮名等の表記

漢字、仮名等の表記は次による。

- ア 漢字 常用漢字表（平成22年内閣告示第2号）の本表及び付表
- イ 仮名遣い 現代仮名遣い（昭和61年内閣告示第1号）
- ウ 送り仮名 送り仮名の付け方（昭和48年内閣告示第2号、昭和56年内閣告示第3号）
- エ ローマ字 ローマ字のつづり方（昭和29年内閣告示第1号）
- オ 外来語 外来語の表記（平成3年内閣告示第2号）

また、「学習指導要領」、各教科・領域の「学習指導要領解説」の記述に準ずる。

※ 留意する表記や用語（小・中・高等学校の『学習指導要領』『学習指導要領解説』等から）

児童のよい点	互いのよさ	児童生徒	よりよく	デジタル化	道徳科	コンピュータ
アイデア（小：図画工作，中：美術，高：芸術，情報など）				アイディア（中：英語、高：英語など）		
コミュニケーション	ハードウェア		レクリエーション	ボランティア		

(2) 「・」とする表記

小・中・高等学校の『学習指導要領解説総則編』に見られる表記を参考にする。

主体的・対話的	見方・考え方	資質・能力	体育・健康	体系的・継続的
興味・関心	横断的・総合的	合科的・関連的	基礎(的)・基本(的)	健康・安全
改善・克服	家族・家庭	基礎的・基本的	国家・社会	編成・実施
評価・改善	産業・経済	能力・適性	役割・立場	教材・教具
問題発見・解決	把握・分析	知・徳・体	アクティブ・ラーニング	
教育内容・方法	連携・協働	実践的・体験的	※観察・実験（観察，実験）	
技術・技能	改善・充実	組織的・計画的	※知識・技能（知識及び技能）	

* 上記の表現については、原則である。したがって、前後の文章によって判断する。

(3) 句読点の使用

- ・ 読点は「，」または「、」を使用し、一つの論文中で統一する。（引用文内の読点もどちらかに統一する。）
- ・ 特に、接続詞の後には、読点を打つ。【例】「また～」→「また，～」 「そして～」→「そして，～」
- ・ 長い文については、句点を打ち、幾つかの文に分ける。

(4) 数詞の扱い

- ・ 基本的に、序数として使う場合は算用数字とし、慣用的な語は漢数字とするが、同一論文中で表記が統一されていればよい。（以下は、学習指導要領内で使用されている表記例）

1 学年	1 単位時間	1 年間	一人一人	役割の一つ	一つ一つの動き	二つ目は
3 点目	次の 2 点に	2 語	第三に	二つの課題	二点説明する	一斉に
2 学年間	2 文	第 2 表	二種類	三つの柱	二人三脚	三者が

- ・ 1 桁の数字は全角，2 桁以上の数字は半角で表記する。（3 人，25 分，100メートル）

(5) その他

「話し言葉」調の記述ではなく、「書き言葉」として記述する。（ただし、児童生徒の発言やワークシートの記述などはこの限りでない）

2 研究論文のまとめ方と記入例

(1) ワードプロソフトの設定

ア 研究計画書，研究紀要などの文書は，特に指定がない限り，次のように様式設定をする。

用紙サイズ	: A4判，縦用紙，横書き
1 ページ字数	: 46字×42行
フォント	: 項目と本文で使い分ける。 <例1> 項目：ゴシック体，本文：明朝体 <例2> 項目：UDデジタル教科書体N-R，本文：UDデジタル教科書体N-R 英単語等にはcentury等を用いてもよい。
フォントサイズ	: 10.5ポイント
余白	: 上余白20mm，下余白25mm，左右余白18mm
表記	: この「佐賀県教育センター論文表記上の参考資料」に準ずる ※ 表内の行数や行間は，特に指定はない。 ※ 図や表の中の文字，図表のタイトルの文字については，8ポイント以上とする。

イ 文字詰めの初期設定

・ 一太郎の場合

ファイル→文書スタイル→スタイル→体裁タグより，「和文体裁」の中の「禁則処理」，「追い込み」，「括弧類の重なり処理」にチェックを入れる。

・ ワードの場合

ファイル→オプション→文字体裁を開き，「カーニング」の「半角英字と区切り文字」及び「文字間隔の調整」の「句読点のみを詰める」にチェックを入れる。

(2) 項目，タイトル，書き出しなど

項目の記号は，必要に応じて下記の使用順序で用いる。

大項目	→	次項目	→	(順次下位項目が必要な場合→)			
1 (全角)		(1) (半角)		ア (全角)	(ア) (半角)	a (全角)	(a) (半角)
2		(2)		イ	(イ)	b	(b)
3		(3)		ウ	(ウ)	c	(c)

[文章の中で項目分けが必要な場合は，①，②，③，または i，ii，iii 等を使用する。]

項目1までは項目用のフォントを用いる (原則)

1	研究の～							
(1)	研究の～							
	ア 研究の～							
	(ア) 研究の～							
	a 研究の～							
	(a) 研究の～							
(a)	←							

* 番号等の付け方は，左の例に準ずる。

* そのページの項目が (a) などの下位項目しかないときは，左詰にする場合もある。

(3) 図や表の挿入

図や表などの掲載については、下記のとおりとする。また、タイトル名は項目用のフォントを用いる。

図・表などが一つしかない場合も、**図 1**、**表 1** などとする。

図・資料の場合……図・資料の下に(センタリング) 表の場合……表の上に(センタリング)

(図) 絵、地図、グラフ 構造図など 図 1 ■タイトル	(資料) 写真、児童の感想など 資料 1 ■○○○○○○ ○○○○○○ ※タイトルが長い場合	表 1 ■タイトル (表) 記録や調査結果を示す 表など
--	--	--

※ センタリングし、全角1文字分空ける。(■は全角スペースを表す)

本文中で図・表などについて言及するときの表記

◇ 本文中では、ゴシック表記。

<例> 実験の様子を**表 5**に示した。
・・・を作成し(資料 4),使用した。
「・・・」(図 3)という質問について、

◇ 文末に示す場合。

<例> 「・・・」と記述している(資料 6)。

◇ 図・表などが別のページにある場合。

<例> 前頁資料 4 を基に、・・・
学習過程を次ページ表 1 に示す。
カード (p. 17資料 8) を活用し、

◇ 図・表などの一部分を示したい場合。

<例> 資料 5 の枠囲み部のように
表 1 の下線部から、・・・
前ページ表 1 の 1, 2 のように

(4) 引用の仕方

ア 引用の示し方

文章中の該当箇所の右肩に^①、^② (上付1/4倍)の通し番号で示す。※^① 括弧、数字すべて半角

<例> ……であるが、梶田叡一は、「○○○……」^①と述べている。

巻末の引用文献欄には、右肩に示した番号を最初に示すことで、引用した書籍や紀要と対応させる。

イ 引用者名の表記

論文中で他の論者の文を引用する場合、初出時にはフルネームで記載。二度目からは姓だけでよい。ただし、同姓の者が複数いる場合は二度目以降もフルネームで記載する。

ウ 引用文には、「」の引用記号を用いる。

前後の文を省略する場合は、「…」(3点リーダー)を2文字分入れる。→「……」

<例> 「○○○……」(後略の場合)「……○○○」(前略の場合)

引用文中に「 」の記述がある場合は、『 』に置き換える。（「○○『○○』○○」）

引用は原文と一字一句違わないようにする。原文の誤植も「ママ」と示し、そのまま記入する。

<例> 「……^{ママ}○○……」（○○は誤植の部分を表す）

エ 長い引用の場合は別の段落にし、左右を1文字分空けておく。

オ 間接引用はなるべく行わないようにする。原文がいろいろと解釈される場合もあるので、直接引用の方がよい。

(5) 引用及び参考文献の書き表し方

ア 著者名、書籍名、発行年、出版社名（引用の場合はページ数も）の順で書く。

イ 引用のページは、そのページのみ場合はp. 7、複数ページの場合はpp. 14-17のように書く。pと-（ハイフン）、.（ピリオド）は半角とする。記述例（1）参照。

ウ 編集した人、著作し編集した人についても、「○○編」「○○編著」と正確に示す。

エ 書籍名には『 』を付ける。

論文の場合は「 」, その論文集（雑誌名）は『 』と併記する。記述例（2）参照。

なお、答申は、『 』, 教育センターのコンテンツも『 』を使用する。

オ 発行年は著作物に書かれている表記を用いる。（西暦なら西暦、元号なら元号）

西暦の場合は、半角数字とする。

元号の場合は、令和9年までは全角数字、10年以降は半角数字とする。

カ 引用文献の記述例

《引用文献》

- (1) ■■ 山田■一郎編著 『総合学習のあり方』■1997年■教育書店■pp. 142-144 （または、p. 142）
- (2) ■■ 佐賀■太郎 『総合的な学習の時間における協働学習の取り入れ方に関する研究』『川上
大学大学院教育実践論文集』■2017年10月号
- (3) ■■ 佐賀県教育センター■ 『平成25・26年度「プロジェクト研究」小・中学校社会科』■平成26年3月
http://www.saga-ed.jp/kenkyu/kenkyu_chousa/h26/01_syakai/toppage.htm
- (4) (5) ■大和■春子 『どうつくる、探究活動』■2019年■佐賀書店■p. 8, p. 25

《参考文献》

- ・鈴木■健一編著 『総合学習の理論』■2011年■大和書房
- ・浦川■仁一郎・森山■義太郎 『国語科の授業づくりを探る』2013年 北館出版社
- ・松尾■信 『問題解決の過程において数学的な思考力を育む指導方法を探る』■2017年■
教育図書社
- ・佐賀県教育センター 『理科力向上サポート事業』
<http://www.saga-ed.jp/chouken/rikasaport/risapotop.html>

Callout boxes:

- 1行で書けない場合は、2行にまたがってよい。
- 引用、参考それぞれの頭をそろえる。
- 書名の開始位置をそろえる。書名でなければ2行目は、『の真下から開始する。
- 参考にしたWeb資料も、参考文献として記す。URLは、頭をそろえる。

3 その他、表記上の注意

- ・項目を表す番号，アルファベットの後は**1マス空ける**。
- ・記号(○,・など)の後はスペースを空けなくてもよい。空けない場合は，2行目以降の文頭は1行目の文頭にそろえる。
- ・半角英数字は，centuryやTimes New Romanに自動変換する場合があるので注意する。
悪い例… PISA 学力調査，2017年，ALT，45分授業など
- ・英字は次のような表記にする。(原則)
英文や単語は，半角で，語頭・文頭だけ大文字を使う。
<例> Web, “What's this?”
単語の頭文字を組み合わせる意味を成すものは，全角で，全て大文字を使う。
<例> ALT, TT, ICT
- ・英文を入れる場合は，カギ括弧(「○○」)ではなく，quotation mark (“○○”) でくくる。
- ・動詞として漢字表記をするものも，補助用言として使う場合は仮名表記とする。
<例> [お菓子を頂く・発表していただく] [資料を下さい・お座りください]
[資料が欲しい・発表してほしい]
- ・網掛けは，濃淡に注意する。
- ・「」に文章が続く場合は，句点(。)を付けない。ただし，「」内に複数の文章がある場合は，最後の文より前の文には句点を付ける。
<例>
……本時の課題を次のように設定した。「じしゃくにつくものつかないものを調べよう。」
(「」の後ろに文章が続かないので，句点を付ける。)
……事前のアンケートの中でA児は，「どう接していいかわからない」と答えていた。
(「」の後ろに文章が続くので，句点を付けない。)
……B児は，「ピーカーの下の方は冷たいよ。水は上の方から温まっていくみたいだ」とつぶやいていた。
(「」に複数の文章があるときは，最後の文だけ句点を付けない。)
- ・文中(箇条書きを含む)の()，「」は**全角**とする。
ただし，項目を表す場合や引用の場合は半角である。例：(1)
- ・%，℃は全角，mm，cm，m，mL，dL，L，g，kgは半角。

4 研究論文の表記について

表中の、△は表外漢字・常用漢字外。〔 〕は望ましい語句、*は許容を示しています。

見出し	表記	備考	あと	跡	苦心の跡, 跡目
			あと	痕	傷痕
			あまり	余り	余りが出る 余りにも
【あ】					怪しい人影
あいさつ	挨拶		あやしい	あやしい	
あいだ	間柄		あやしい	妖しい	
あいにく	あいにく	△生憎	あらかじめ	あらかじめ	△予め
あいまい	曖昧		あらためて	改めて	改めて～する
あいまって	あいまって	△相俟って	あらゆる	あらゆる	△所有
あえて	あえて	あえて～する	あらわす	表す	言葉に表す
あきらめる	諦める			現す	姿を現す
あくる	明くる	明くる日		著す	書物を著す
あげく	挙げ句	～した挙げ句	あらわれる	表れる	喜びの表れ
あける	明ける	夜が明ける		現れる	太陽が現れる
	空ける	時間を空ける	ありか	在りか	△在り処, 在処
	開ける	窓を開ける	ありかた	在り方	
あげる	上げる	品物を上げる	ありがたい	有り難い	有り難み
		物価が上がる	ありがとう	ありがとう	
	揚げる	船荷を揚げる	ある(連体詞)	ある	ある日
		歓声が揚がる	ある(動詞)	ある	そこに問題がある
	挙げる	一例を挙げると		有る	財源が有る
	～(て)あげる	国を挙げて		在る	有り・無し
		図書を貸してあげる			日本はアジアの東
あこがれる	憧れる				に在る
あざける	嘲る			～(て)ある	書いてある
あたかも	あたかも	△恰も	あるいは	あるいは	△或いは
あたり	辺り	辺り一面	あわせて(副詞)	併せて	併せてお願いする
あたりまえ	当たり前		あわせて(接続詞)	あわせて	あわせて, ～
あたる	当たる	予報が当たる	【い】		
		～に当たり,	いう	言う	彼の言うこと
		～に当たって,		～いう	～という場合
あっせん	あっせん	△斡旋		いう	こういうこと
		〔周旋, 世話〕	いえども	いえども	〔～でも, ～であ
あつらえる	あつらえる	△誂える			っても〕
あて	宛	宛名, 宛先	いえる	言える	～と言える
		各学校宛て	いかす	生かす	△活かす〔活用する〕
あてる	当てる	日光に当てる	いきおい	勢い	勢いが悪い
		当て外れ	いけい	畏敬	
	充てる	保安要員に充てる	いく	行く	学校へ行く
あと	後	後で～する		…(て)いく	実施していく

見出し	表記	備考	【か】		
			か	か	3か月(1, 2か月) 二, 三箇所
おかげ	おかげ	おおよそ2か月く らい △お蔭 おかげで～	かじょうがき かい がいして	箇 箇条書 かい 概して	△甲斐 ～したかいがあつて 概して良好である
おこない	行い	△行ない	かいしよ	楷書	
おこなう	行う	調査を行う △行なう	かいよう かえつて	潰瘍 かえつて	潰す △却つて
おくびょう	臆病	臆する			かえつて不便になる
おさめる	収める	目録に収める	かえりみる	顧みる	過去を顧みる
	納める	注文の品を納める		省みる	自らを省みる
	治める	領地を治める	かえる	変える	観点を変える
	修める	学を修める		換える	名義を書き換える
おそらく	恐らく			替える	振り替える
おそれ	おそれ	～のおそれがある		代える	書面をもって挨拶 に代える
おそれ	畏れ	畏れ多い言葉			
おつて(副詞)	追つて		かかる	かかる	△斯る
おとさた	音沙汰	[便り, 音信]			[このような]
おとな	大人			かかる	△罹る
おのおの	各, 各々				病気にかかる
おのずから	おのずから	△自ら おのずから理解で きる		係る	～に係ること △関る
おびたしい	おびたしい	△夥しい	かかわり	関わり	△～にも関わらず
おぼしめし	おぼしめし	△思召し	かかわる	関わる	
おぼつかない	おぼつかない	△覚束ない	かく	描く	国境線を描く
おもしろい	面白い		かぐ	嗅ぐ	嗅覚
おもに	主に		がけ	崖	断崖, 崖下
おもむき	趣		かける	掛ける	迷惑を掛ける
おもむく	赴く	任地に赴く			時間を掛ける
おもわく	思わく	△思惑		懸ける	費用を掛ける 優勝を懸ける
およそ	およそ	△凡そ			賞金を懸ける
および(接続詞)	及び	A及びB		架ける	橋を架ける
およぼす	及ぼす				電線を架ける
おり	折	その折	かこく	苛酷	*過酷
おりから	折から	△折柄	かする	課する	税を課する
おる	おる	△居る ～しております	かたがた	科する	刑を科する
おわり	終わり	△了	かたづけ	かたがた	お礼かたがた
			かたづける	片付け	
				片付ける	

見出し	表記	備考			
			きたる	来る	来る○月○日
			きづき(きづく)	気付き(気付く)	△気づき(気づく)
			きはく	希薄	△稀薄
かたわら	傍ら	歩道の傍ら	きふ	寄附	
がち(接尾語)	～がち	～しがち ～ありがち	きまり	きまり 決まり	きまりに関する 決まり方
かつ	かつ	△且つ	きゅうかく	嗅覚	
かつきてき	画期的		きゅうし	臼齒	
かっこ	括弧		きる	切る	
かつて	かつて	△嘗て	きる	斬る	世相を斬る
かつて	勝手	勝手に違う 勝手次第	きわまる	窮まる	進退窮まる 窮まりなき宇宙
かつとう	葛藤			極まる	不都合極まる言動
かっぱつ	活発		きわめて	極めて	極めて大きい
かな	仮名	片仮名, 平仮名 仮名遣い	きわめる	極める	見極める
				究める	学を究める
かなう	かなう	△叶う, 適う	きんさ	僅差	
かなた	かなた	△彼方	【く】		
かならず	必ず		ください	下さい	資料を下さい
かまう	構う	構わない 費用に構わず お構いなく		ください	御指導ください 御覧ください
	～(て)もかまわ ない	外出してもかまわ ない	くだす	～(て)ください	問題点を話してく ださい
がまん	我慢		くだす	下す	判決を下す
かもしれない	～かもしれない	△かも知れない 間違いかもしれない	くみあわせる	組み合わせる	
			くみたてる	組み立てる	
からめる	絡める		くむ	酌む	酒を酌む 事情を酌む
かろうじて	辛うじて		くらい	位	位する 位取り
かんがみる	鑑みる			～くらい(ぐら い)	どのくらい
かんげき	間隙		くらべる	比べる	△較べる
かんじん	肝心	△肝腎 肝心要 肝心な事柄 ～に関する～	くる	来る	人が来る
				～(て)くる	寒くなってくる
かんする	関する		くれぐれも	くれぐれも	△呉々も
かんぺき	完璧		くれる	くれる	△呉れる
【き】				～(て)くれる	資料をくれる 援助してくれる
きがかり	気掛かり				
きぐ	危惧		くろうと	玄人	
きする	期する	～を期して	【け】		
きそん	毀損		げ(接尾語)	～げ	惜しげもなく
きたす	来す	支障を来す			

見出し	表記	備考	こと	事	事を起こす
		△～気			事に当たる
けいがいか	形骸化		ことがら	～こと	許可しないことがある
けいもう	啓もう	△啓蒙〔啓発〕	ごと	事柄	次の事柄について
けた	桁	3桁, 橋桁	ごとく	～ごと	△毎
けっこう	結構	結構な品物		ごとく	△如く
		結構です	ことさら		〔ように〕
	けっこう	けっこう役に立つ	ことなる	殊更	殊更～する
けんさん	研さん	△研鑽	ことに	異なる	意見が異なる
けんそん	謙遜		ことのほか		～を異にする
けんばん	鍵盤		こども	殊に	殊に優れている
【こ】			こどもたち	殊の外	
ご(接頭語)	御～	御案内	ことわる	子供	
		御調査のほど	このごに～	子供たち	
	ご～	ごあいさつ	このように	断る	断りの手紙
		ごべんたつ	ごぶさた	この期に～	この期に及んで
		(仮名書きの場合)	こむ	このような	
ごい	語彙		こもる	御無沙汰	
こう	乞う	雨乞い	ころ	混む	電車が混む
こうばい	勾配		こんてい	込む	負けが込む
ごうまん	傲慢		コンピュータ	籠もる	閉じ籠もる
こうむる	被る	損害を被る	【さ】	頃	日頃
こうよう	高揚	△昂揚	ざせつ	根底	
こえる	越える	山を越える	さいはい	コンピュータ	△コンピューター
		年を越す	さいわい		
	超える	10万円を超える額	さかのぼる	挫折	
		1000万人を越す人	さき	采配	
		口	さきに	幸い	幸いだ
こかんせつ	股関節		さきほど		幸い間に合った
ごく	ごく	△極	さげすむ	遡る	
		ごく新しい	ささいな	先	先に立つ
こけつ	虎穴		ささげる		先取り, 先んずる
こころがけ(る)	心掛け(る)		さしあげる	さきに	さきにお知らせ
ごぞんじ	御存じ	△御存知	さしあたり	先ほど	△先程
		御存じですか	さしえ	蔑む	
こたえ(名詞)	答え		さしかかる	ささいな	△些細な
こたえる	答える	質問に答える		ささげる	△捧げる
	応える	要望に応える		差し上げる	
		(～に応じる)		差し当たり	
こっけい	滑稽			挿絵	
				差し掛かる	

見出し	表記	備考			
さしさわり	差し障り		しくみ	仕組み	機械の仕組み
さしず	指図		しげき	刺激	
さしずめ	さしずめ	△差し詰め	しごく	至極	至極もつともである
さしだす	差し出す	さしずめ計画どおりに実施する	しさい	子細	△仔細 子細があって
さしだしにん	差出人	紹介状を差し出す	しじゅう	始終	始終～する
さしつかえる	差し支える		しだい	次第	式次第 ～する次第である
さしつかわす	差し遣わす		したがう	従う	法律に従う
さすがに	さすがに	△流石に	したがって(接続詞)	したがって	△従って したがって、～
させつ	挫折		じつに	実に	
さっきゅう	早急	早急に手配する	しばしば	しばしば	
さっそく	早速	早速送付する	しばらく	しばらく	△暫く
さばく	さばく	△捌く 品物をさばく	しぼる	絞る	手ぬぐいを絞る 絞り染め
さほど	さほど	罪人を裁く		搾る	乳を搾る 搾り取る
さまざま	様々	さほど重要でない	しまつする	始末する	書類を始末する
さらい～	再来～	再来週, 再来月, 再来年	シミュレーション	シミュレーション	×シミュレーション
さらなる(連体詞)	更なる(連体詞)		しめきり	締切り	申込みの締切り 締切日
さらに(副詞)	更に	更に検討する	しゃりょう	車両	△車輛
さらに(接続詞)	さらに	さらに, ～	しゅうちしん	羞恥心	
さる	去る	去るに当たって 去る○日	じゅうぶん	十分	△充分
さわやか	爽やか		じょうず	上手	
さわる	障る	気に障る 差し障る	じょうぶ	丈夫	丈夫な体
	触る	展示品に触る 手触りがよい	しょせん	所詮	
さんけい	参詣		しりぞける	退ける	△斥ける
ざんしん	斬新		しろうと	素人	
さんろく	山麓		しんし	真摯	
【し】			しんしよく	侵食	△侵蝕
しあわせ	幸せ		しんせき	親戚	
しいて	強いて		じんだい	甚大	被害甚大
しいてき	恣意的		しんちよく	進捗	
しかた	仕方	仕方がない	じんもん	尋問	△訊問
しかる	叱る	※叱責, 叱咤	【す】		
			すいせん	推薦	
			ずいぶん	随分	随分早く着いた

見出し	表記	備考			
すえおき	据置き		そうかい	爽快	
すえおく	据え置く		ぞうきん	雑巾	
すき	隙	隙間	そうごう	総合	△総合
すぎない	すぎない	～にすぎない	そうじて	総じて	
すぎる	過ぎる	期限が過ぎる	そうそうに	早々に	
すくなくとも	少なくとも		そうてい	装丁	
すぐに	すぐに	△直に	そうとう	相当	部長に相当する 相当難しい
すぐれる	優れる	△勝れる	そうにゆう	挿入	
すこし	少し		そうめい	そうめい	△聡明 〔賢明, 賢い〕
すすめる	進める	交渉を進める	そち	措置	
	勧める	入会を勧める	そっせん	率先	
	薦める	候補者として薦める	そば	そば	△側, △傍
ずつ	ずつ	1つずつ	そまつな	粗末な	
		少しずつ	それ	それ	それぞれ, それら それゆえ
すでに	既に	既に完成している	そろう	そろう	△揃う *品揃え
すなわち	すなわち	△即ち	ぞんずる	存ずる	それがよいと存じ ます 御存じの～
すばらしい	すばらしい	△素晴らしい			
すべて	全て	△総て	【た】		
すみやかに	速やかに	速やかに実施する	た	他	その他
すりあわせる	擦り合わせる		たいがい	大概	大概大丈夫だろう
すわる	座る	座り込む	たいした	大した	大したことはない 大して参考になら ない
	据わる	目が据わる			
【せ】			だいじょうぶだ	大丈夫だ	もう大丈夫だ
せいとん	整頓		たいせき	堆積	
せっかく	せっかく	△折角	たいせつに	大切に	
せつに	切に	切に祈る	たいそう	大層	大層明るい
ぜひ	是非	是非を論ずる 是非お願いします	だいたい	大体	大体よい 大体のところは 大抵のことは分かる
せん	栓	消火栓	たいてい	大抵	
せん	腺	涙腺, 前立腺	たいとう	台頭	
せんさく	詮索		だいぶ(ん)	大分	大分増えた
せんぼう	羨望		たいへん	大変	大変な人手
【そ】			たえず	絶えず	絶えず行き来する
ソ・ソウ	曾(曾)	曾祖父			
そう	沿う	意見に沿う 川沿いの家			
	添う	連れ添う 付き添い			

見出し	表記	備考	だれ	誰	
			【ち】		
たがいに	互いに	互いに励まし合う	ちいさな	小さな	
たぐい	類い		ちかごろ	近頃	
たくさん	たくさん	△沢山	ちかづく	近づく	△近づく
たけ	丈	身の丈 思いの丈を述べる	ちくいち	逐一	逐一報告する
だけ	～だけ	調査ただけである	ちなみに	ちなみに	△因みに
たしょう	多少	多少早くなる	ちなむ	ちなむ	△因む
たずねる	尋ねる	由来を尋ねる	ちみつ	緻密	
	訪ねる	知人を訪ねる	ちょうだい	頂戴	
		史跡を訪ねる	ちょうど	ちょうど	△丁度
ただ	ただ	△唯, 只	ちよっと	ちよっと	△一寸
ただし(接続詞)	ただし	△但し	ちんでん	沈殿	△沈澱
ただちに	直ちに		【つ】		
たち(接尾語)	～たち	△達 子供たち, 私たち ※友達…熟語として漢字	ついたち	一日	※月の始めの日と いう慣用句的扱い
				*12月1日	
たちのく	立ち退く	立ち退き	ついで	次いで	
たちまち	たちまち	△忽ち	ついでに	ついでに	ついでに仕事も頼む
たつ	断つ	退路を断つ	ついでに		
	絶つ	縁を絶つ 消息を絶つ	ついでに(接続詞)	ついでに	△就いては ついでに, ~
	裁つ	生地を裁つ	ついに	ついに	△遂に
たて	盾	△楯	ついに		ついに完成する
たとえば	例えば		つかう	使う	機械を使う
たのもし	頼もしい			遣う	重油を使う
たび	度	度重なる 度々		遣う	心を遣う 気を遣う
	～たび	このたび ～するたび			小遣い銭 仮名遣い
たぶん	多分	多分～であろう	つかわす	遣わす	差し遣わす
たまわる	賜る		つき	～付き	折り紙付き
ため	ため	△為 ために ～のため			尾頭付き
			つき	つき	顔つき, 目つき 体つき
だめ	駄目	駄目を押す	つき	次	次のとおり
ためす	試す	切れ味を試す	つく	付く	次々と △附く
					利息が付く
				着く	味方に付く 手紙が着く 船を岸に着ける

見出し	表記	備考	【て】		
			てあて	手当	手当を支給する
				手当て	傷の手当て
	就く	職に就く	ていしょく	抵触	
		役に就ける	ていねい	丁寧	
つぐ	次ぐ	事件が相次ぐ	ておくれ	手後れ	
		取り次ぐ	てがかり	手掛かり	
	継ぐ	跡を継ぐ	でかける	出掛ける	
		引き継ぐ	でき	出来	出来心, 出来事
	接ぐ	木を接ぐ			出来上がる
		接ぎ木			出来上がり
つくる	作る	おもちゃを作る			出来が良い
つくる	造る	船を造る	～でき	～出来	上出来, 不出来
つくる	創る	新しい文化を創り出す	デキ	※溺	※溺愛
			できる	できる	△出来る
	つくり	*課題づくり			利用できる
		*授業づくり			できるだけ～
づけ	～付け	○月○日付け	てぎわ	手際	手際が良い
		日付	てごろ	手頃	手頃な大きさ
つける	付ける	条件を付ける	てだて	手立て	△手だて
		付け替える	てはず	手はず	△手筈
		関連付ける			手はずを整える
つごう	都合	都合で	てびき	手引	指導の手引, 手引書, 手引きをする
		都合○名			
つたない	拙い		てもと	手元	△手許
つつしむ	慎む	身を慎む	【と】		
つづる	つづる	△綴る	といあわせ	問合せ	問合せをする
		文をつづる	といあわせる	問い合わせる	
		書類をつづり込む	～とう	～等	「など」と読ませたいときは仮名
*ぶんしょつづり	*文書綴り				
つど	都度	その都度	とうがい	当該	
つとめて	努めて	努めて早起きする	どうくつ	洞窟	
つとめる	努める	解決に努める	どうし	同士	児童同士
	勤める	会社に勤める	どうじょう	同上	
	務める	議長を務める	とうてい	到底	到底できない
		主役を務める	とうとう	とうとう	とうとう決定した
つながる	つながる	△繋る	とおり	通り	銀座通り, 一通り
つねに	常に			～を通して	
つまずき	つまずき			～とおり	次のとおりである
つもり	積もり	心積もり			従来どおり
		※見積り	とかく	とかく	△兎角
	つもり	そのつもりだ			とにかく

見出し	表記	備考		～とも	～とともに
とき	時 ～とき	とにもかくにも 時の記念日 事故のときは連絡する ～したとき	ともだち ども(接尾語) ともなう	友達 ども 伴う	～するとともに 今後とも 家庭や地域とも △共 私ども ～に伴って
とく	解く 溶く	問題を解く 疑いが解ける 会長の任を解かれる 絵の具を溶く 地域社会に溶け込む	とらえる とらえる とりあえず とりあげる とり入れる	捕らえる 捉える 取りあえず 取り上げる 取り入れる	泥棒を捕らえる 機会を捉える △取り敢えず 取りあえず御報告まで
とくに	特に		とりかかる	取り掛かる	仕事に取り掛かる
どこ	どこ	△何処	とりくみかた	取り組み方	
ところ	所 ～ところ	△処 現在のところ差し支えない	とりくむ とりはからう とりまとめ とりもどす	取り組む 取り計らう 取りまとめ 取り戻す	
ところが(接続詞)	ところが		とりやめ	取りやめ	△取り止め
ところで(接続詞)	ところで		とりわけ	とりわけ	
とじる	とじる 閉じる	△綴じる 紙をとじる 門を閉じる	とりわけ とりわけ とる	取り分ける とる	バランスをとる 形態をとる
とつぜん	突然				
ととのえる	整える 調える	身辺を整える 調子を整える 晴れ着を調える 費用を調える		取る	食事をとる(する) 感じ取る アンケートを取る
とどめる	とどめる	△止める, △留める 記録にとどめる		摂る 採る	メモを取る 連絡を取る 栄養を摂る 高校の卒業生を採る
とほいうものの	とほいうものの				
とはいえ	とはいえ				会議で決を採る
とめる	止める 留める 泊める	息を止める ボタンを留める 留め置く, 書留 客を泊める		執る 捕る 撮る	事務を執る 式を執り行う 生け捕る 写真を撮る
とも	共	～と～が共に～ 共に(副詞) 共々(副詞)	【な】 ない	ない	△無い 欠点がない

見出し	表記	備考			
			なるべく なるほど	なるべく なるほど	小さくなる なるべく早くする △成程
		行かない	【に】		
		有り・無し	におう	匂う	梅の花が匂う
	亡い	亡くなる	におう	臭う	生ゴミが臭う
		亡き人	にぎわう	にぎわう	△賑わう
ないし	ないし	△乃至	にくい	憎い	△～憎い, ~難しい
		北ないし北東の風			言いにくい
なお	なお	△尚, 猶	になう	担う	△荷う
		なお, ~			双肩に担う
		なおさら	にらむ	にらむ	△睨む
なか	中	箱の中, 括弧の中			にらみ合わせる
ながい	長い	長い道, 気が長い	にわか	にわか	△俄
	永い	末永く契る			にわかにならぬ
なかなか	なかなか	なかなか現れない	【ぬ】		
なかば	半ば	半ば諦める	ぬぐう	拭う	
ながら	ながら	△乍ら	【ね】		
		歩きながら話す	ねりなおす	練り直す	
なごり	名残		ねらい	狙い	*授業や指導において「ねらい」と仮名表記
なさけ	情け	情けない			
なざし	名指し		【の】		
なされる	なされる	△成される	のうり	脳裏	△脳裡
なじむ	なじむ	△馴染む	のがす	逃す	逃れる
なす	なす	△為す	のける	のける	△除ける
		なすすべもない	のちほど	後ほど	後ほど連絡する
なぜ	なぜ	△何故	のつとる	のつとる	△則る
～など	～など	△等は「とう」と読む			[基づく, 従う, よる, 即する]
ななめ	斜め				
なにとぞ	何とぞ	△何卒	のばす	伸ばす	勢力を伸ばす
なにぶん	何分	何分よろしく			学力が伸びる
なみなみ	並々	並々ならぬ		延ばす	開会を延ばす
ならう	倣う	前例に倣う			支払いが延び延び
ならびに(接続詞)	並びに	(a及びb)並びに(c及びd)	のべる	延べる	になる
			のべる	伸べる	布団を延べる
なりたつ	成り立つ				救いの手を差し伸べる
なりゆき	成り行き		のむ	飲む	△呑む
なる	成る	△為る	【は】		
		本表と付表とから	はあく	把握	
		成る	はいぜん	配膳	
	なる	1万円になる			

見出し	表記	備考			
はいる	入る		はば	幅	△巾
はえる	栄える	見栄え, 出来栄え	はばかり	はばかり	△憚る
はがき	はがき	△葉書	はばむ	阻む	
はがす	剥がす	剥ぐ	はやい	早い	時期が早い
はかどる	はかどる	△捗る			矢継ぎ早
はからずも	図らずも		はらいもどし	払戻し	流れが速い
ばかり	～ばかり	こればかり ～するばかり	はらいもどす	払い戻す	テンポが速い
はかる	図る	合理化を図る 解決を図る	はる	張る	リンクを張る
	計る	時間を計る 計り知れない恩恵	はれる	貼る	シールを貼る
	測る	距離を測る 面積を測る	はんてん	腫れる	※腫らす
	量る	目方を量る 容積を量る	はんようせい	斑点	
	謀る	暗殺を謀る	はんれい	汎用性	
	諮る	審議会に諮る	【ひ】	凡例	
はぐくむ	育む	育んだ, 育み	ひいては	ひいては	△延いては
ばくぜん	漠然	漠然とした	ひきおこす	引き起こす	△惹き起こす
ばくだい	ばくだい	△莫大, [多大]	ひごと	日ごと	△日毎
はさむ	挟む	挟み込む	ひごろ	※日頃	
はじめ	はじめ	各学年のはじめ 教職員をはじめ ～をはじめとして	ひづけ	日付	
	始め	始め-中-終わり	ひとかたならぬ	一方ならぬ	
はじめて	初めて	初めての経験	ひとしお	ひとしお	△一入
はじめ(る)	始める	思考し始める 始めから終わりまで	ひとしく	ひとしく	△斉しく
はず	はず	△筈 できるはずがない			全員ひとしく賛成 した
はずれる	外れる	町外れ, 外す 踏み外す	ひとそろい	一そろい	△一揃
はたして	果たして	果たして～だ	ひとたび	一たび	△一度
はつらつ	はつらつ	△撥刺	ひととおりの	一通り	
はで	派手		ひとまず	ひとまず	△一先ず
はなしあう(動詞)	話し合う	話し合った	ひとり	一人	一人っ子 一人一人
はなはだ	甚だ	甚だ大きい 甚だしい			△一人ひとり
			ひとわたり	ひとわたり	ひとり占め
			ひゆ	比喩	△一渡り
			ひよく	肥沃	
			ひょうき	表記	表記の金額
				標記	国語の表記
					標記のことについて

見出し	表記	備考	ふんいき	雰囲気	
			【へ】	閉塞	
ひらく	開く	窓を開く，未来を開く，△拓く	へいそく	ページ	△頁（論文中は使用することもある）
ひろがる	広がる	△拡がる	ページ	べき	△可き
びんせん	便箋		べき	べき	そうすべきである
ひんばん	頻繁		へきち	へき地	△僻地，[辺地]
【ふ】			へた	下手	
ふ	附	附則，附属，附帯 附置，寄附	べんたつ	べんたつ	△鞭撻
	付	付記，付随，付与 付録，交付，給付	【ほ】		
ふう	風	洋風，学者風の人	ほう	方	先方，方針，諸方 君の方
	～ふう	こういうふうに造る 知らないふうを装う	ほうだい	膨大	△龐大，[多大]
ふえる	殖える	財産が殖える	ほうる	放る	
	増える	人数が増える	ほか	ほか	原則ひらがなで ほかの意見，ほかから探す
ふく	拭く			他（た）	思いの外
ふさぐ	塞ぐ	塞がる	ほしい	外	*殊の外
ふさわしい	ふさわしい	△相応しい		欲しい	金が欲しい
ふじゅうぶん	不十分	△不充分		～してほしい	欲しがる
ふせん	付箋		ほそく	補足	見てほしい
ふたたび	再び			捕捉	人工衛星を捕捉する
ふだん	ふだん	△普段 ふだん考えていること	ほど	程	程遠い，程なく 身の程
ふっしょく	払拭	拭く，拭う		ほど	先ほど，後ほど
ふまえ	踏まえ	～を踏まえて		～ほど	今朝ほど
ふりがな	振り仮名		ほとんど	ほとんど	少ないほど良い
ふるう	振るう	腕を振るう 事業が振るわない	ほにゅうるい	哺乳類	△殆ど
	震う	声を震わせる 身震い	ほぼ	ほぼ	△略
	奮う	勇気を奮う 奮い立つ	ほまれ	誉れ	
ふるって	奮って	奮って参加ください	ほめる	褒める	△誉める
ふれあう	触れ合う		ほんとう	本当	本当の話，本当に
ふれる	触れる		【ま】		
			まいしん		△邁進
			まぎわ	間際	出発間際

見出し	表記	備考	もと	下	
めいめい	銘々	銘々に分ける		元	法の下に平等
めいりょう	明瞭			本	～という理念の下
めがね	眼鏡			基	火の元, 出版元
めぐる	巡る	寺を巡る	もの	～もの	本を正す
	めぐる	課題をめぐって			資料を基にする
めざす	目指す	△めざす		物(物体として	基づく
めざましい	目覚ましい			存在する物)	正しいものと認める
めった	めった	△滅多		者(人間)	～を示すもの
		めったやたらに	もより	最寄り	物を大切に扱う
めでたい	めでたい	△目出度い	もらう	もらう	18歳未満の者
めど	めど	△目処			最寄りの駅
めやす	目安		もらす	漏らす	△貰う
めんどう	面倒	御面倒をお掛けします	もろもろ	もろもろ	～してもらう
			【や】		本音を漏らす
【も】			やかましい	やかましい	△諸々
もうしあげる	申し上げる		やくわり	役割	△喧しい
もうしあわせ	申し合せ	申し合わせる	やさしい	易しい	
もうしこむ	申し込む			優しい	易しい問題
もうしこみ	申込み	申込書	やすい	安い	優しい心遣い
もうしわけ	申し訳			～やすい	
もうら	網羅				△易い
もくと	目途	年末完成を目途とする	やっかい	厄介	読みやすい
			やむをえず	やむを得ず	
もくろみ	もくろみ	△目論見	やわらかい	柔らかい	柔らかな毛布
もし	もし	△若し			物柔らかな態度
もしくは(接続詞)	若しくは	a 若しくは b		軟らかい	表情が軟らかい
もたらす	もたらす				軟らかな土
もちろん	もちろん	△勿論	やわらぐ	和らぐ	気持ちが和らぐ
もつ	持つ	荷物(物体)を持つ	【ゆ】		
	もつ	責任(物体以外)	ゆいしよ	由緒	
	もつ	をもつ	ゆうゆう	悠々	悠々自適
もって	もって	△以って	ゆえ	故	故あって, 故なく
		～をもって		～ゆえ	一部の反対のゆえ
もつとも	最も	最も大切			にはかどらない
	もつとも	もつともな御意見です	ゆえに(接続詞)	ゆえに	それゆえ
もつぱら	専ら	専ら仕事に力を入れる	ゆがむ	ゆがむ	ゆえに, ~
			ゆくえ	行方	△故に
					△歪む
					行方不明

見出し	表記	備考
ゆだねる	委ねる	
ゆるむ	緩む	緩やかだ
【よ】		
よい	良い（評価）	
	よい	よい点，住みよい 都合のよい，よい こと，よい機会 （指導要領の表現）
	～（て）よい（許可）	連絡してよい
	善い	善い行い
よけい	余計	費用が余計に掛か る
よごれる	汚れる	
よほど	よほど	△余程
よりどころ	よりどころ	△拠所
よる	よる	△依る，因る これによってよい
よろしく	よろしく	△宜しく
【ら】		
ら	～ら	△～等 これら，我ら
【り】		
りっぱ	立派	
【る】		
るす	留守	
【れ】		
れんが	れんが	△煉瓦
【わ】		
わが	我が	我が国，我が家
わかる	分かる	△解る，判る 気持ちが分かる
わけ	訳	訳がある，申し訳 ない
わずか	僅か	
わずらう	煩う	思い煩う 人手を煩わす
	患う	胸を患う
わたくし	私	私事
わたし	私	

わたる	渡る	橋を渡る
	わたる	2行にわたる 細部にわたる
わびる	わびる	△詫びる
わりあい	割合	
わりに	割に	
われ	我	我々，我ら

☆ 複合の**名詞**の場合，送り仮名を付けずに書くことができる。

受入れ	受渡し	打合せ	置場
買物	書換え	貸出し	期限付
組合せ	組替え	組立て	条件付
立会い	問合せ	取扱い	取決め
取消し	話合い	引継ぎ	見合せ
見積り	申合せ	申入れ	申込み
申立て	申出	持込み	呼出し
受付	奥付	貸出	箇条書
出入口	手引	手引書	取組
日付	見取図	申込書	物語
役割			など

※ 同一論文中では，表記を統一する。

参考：送り仮名の付け方について

「法令における漢字使用等について」

（平成22年11月30日付け内閣法制局長官決定）

【付録】 公用文における漢字使用等について (文化審議会国語分科会作成) から抜粋

1 次のような代名詞は原則として漢字で書く。

<例> 俺, 彼, 誰, 何, 僕, 私, 我々

5 次のような接続詞は, 原則として, 仮名で書く。

<例>
おって, かつ, したがって, ただし, ついては,
ところが, ところで, また, ゆえに

2 次のような副詞及び連体詞は, 原則として漢字で書く。

<例> 副詞
余り, 至って, 大いに, 恐らく, 概して, 必ず,
必ずしも, 辛うじて, 極めて, 殊に, 更に, 実に,
少なくとも, 少し, 既に, 全て, 切に, 大して,
絶えず, 互いに, 直ちに, 例えば, 次いで, 努め
て, 常に, 特に, 突然, 初めて, 果たして, 甚だ,
再び, 全く, 無論, 最も, 専ら, 僅か, 割に

<例> 連体詞
明くる, 大きな, 来る, 去る, 小さな, 我が(国)

ただし, 次の4語は, 原則として漢字で書く。
及び, 並びに, 又は, 若しくは

ただし, 次のような副詞は原則として仮名で書く。

<例> かなり, ふと, やはり, よほど

3 次の接頭語は, その接頭語が付く語を漢字で書く場合は, 原則として, 漢字で書き, その接頭語が付く語を仮名で書く場合は, 原則として, 仮名で書く。

<例>
御案内(御+案内), 御挨拶(御+挨拶),
ごもつとも(ご+もつとも)

4 次のような接尾語は, 原則として仮名で書く。

<例>
げ(惜しげもなく), ども(私ども), ぶる(偉ぶる),
み(弱み), め(少なめ)